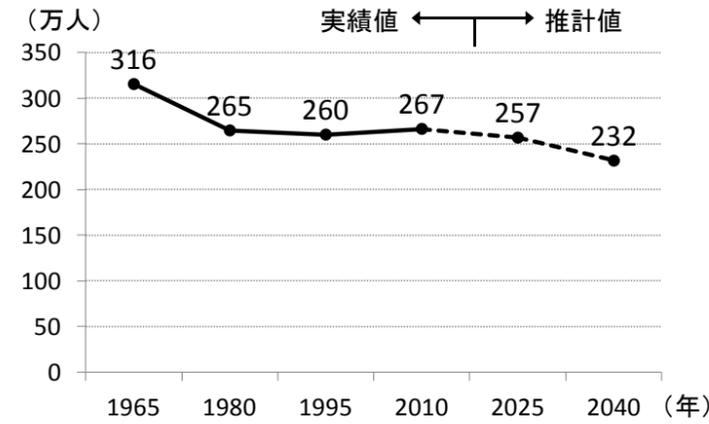


大阪市人口ビジョン（素案）【概要版】

1 大阪市の人口の潮流

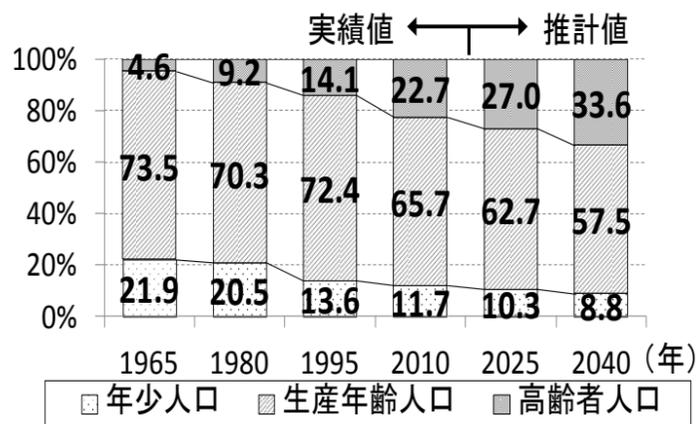
① 総人口の推移

- ・近年増加傾向も、2015年頃を境に減少傾向に
- ・2040年には232万人と2010年から13.1%減少



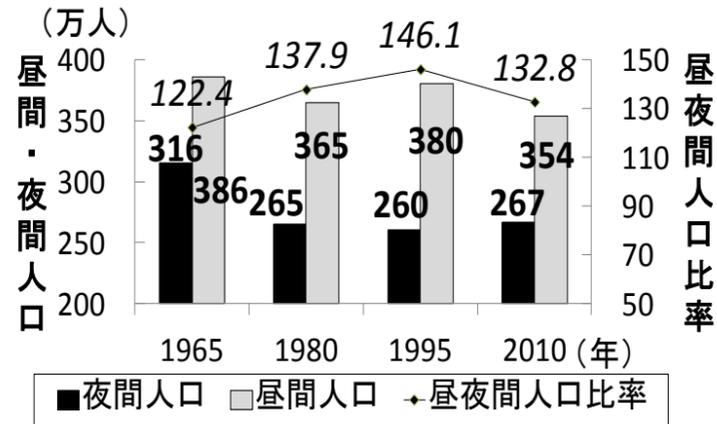
② 人口構造の変化

- ・1990年から20年間で高齢化率倍増
- ・2040年には高齢化率33.6%



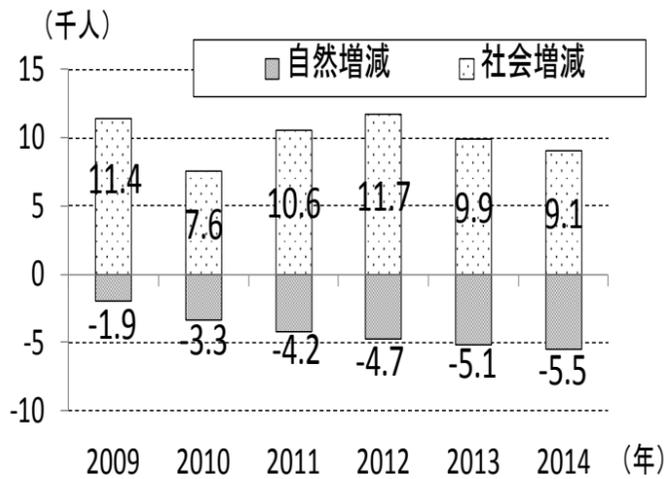
③ 昼間人口等の推移

- ・昼夜間人口比率は132.8 (2010年)
- ・昼間人口・昼夜間人口比率ともに減少傾向



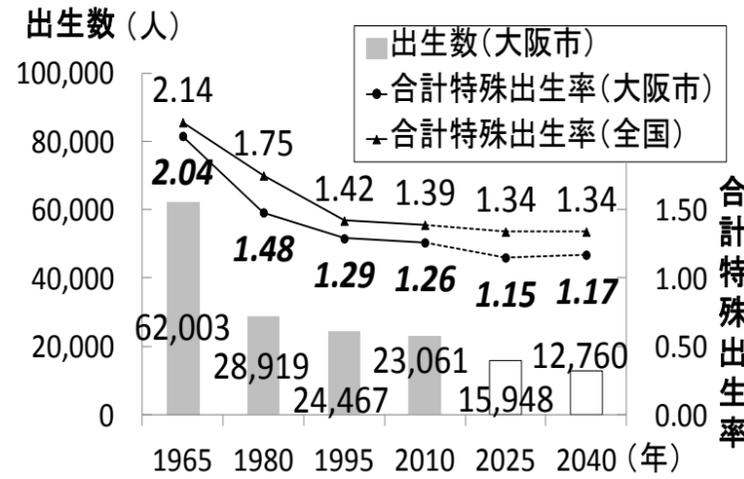
④ 自然・社会増減の推移

- ・近年、自然減の幅が年々拡大する一方で、社会増は概ね1万人前後で推移も縮小傾向



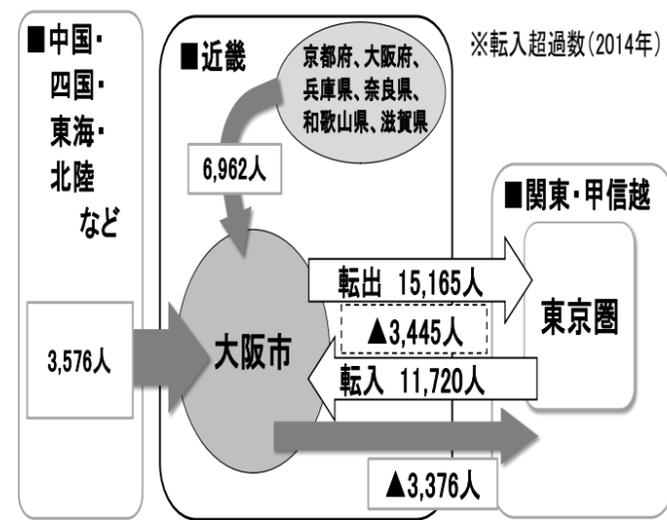
⑤ 合計特殊出生率・出生数の推移等

- ・合計特殊出生率は全国平均と比べて低水準
- ・出生数は2040年に1965年の1/5程度に減少

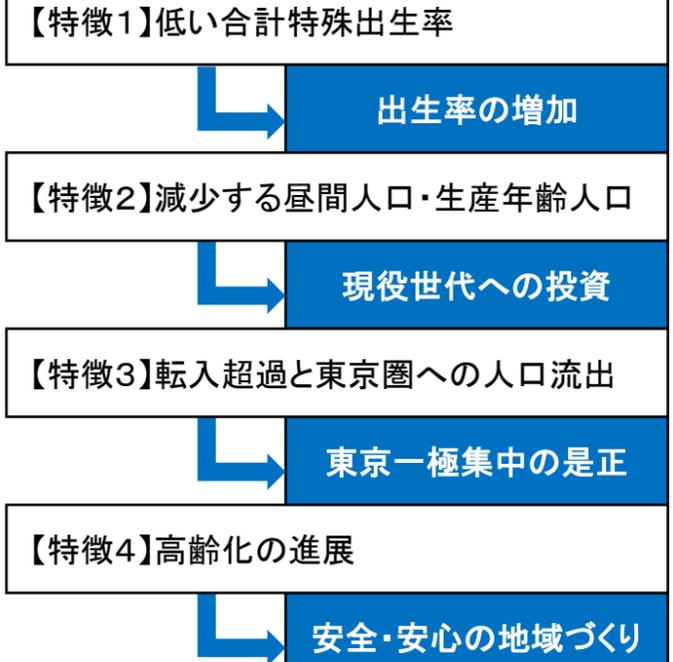


⑥ 東京圏に対する転出状況

- ・東京圏への流出が顕著
- ・他の圏域に対しては転入超過



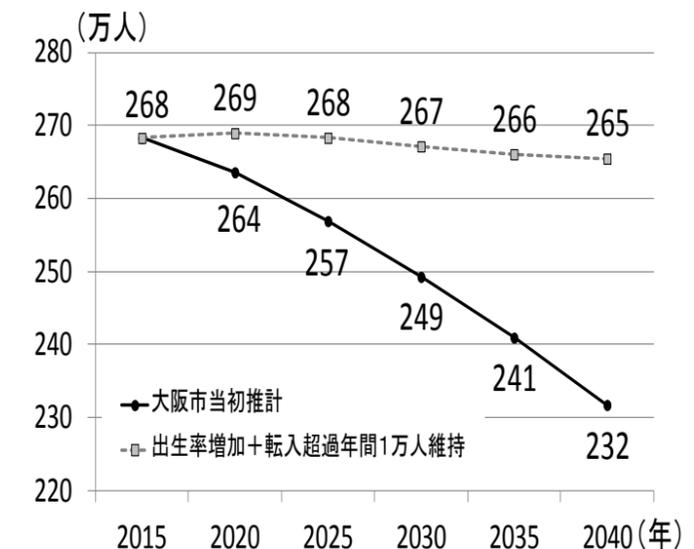
3 大阪市の特徴とめざすべき将来の方向



4 人口の将来展望

出生率の増加と転入超過傾向の維持を前提とすると、大阪市の総人口は2030年に約267万人、2040年でも265万人と、概ね、現状の人口規模を維持できる見込み。

- 出生率が増加するとともに転入超過数が年間1万人で維持された場合



2 人口減少・超高齢社会の影響

経済	市民生活、医療・福祉	まちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・消費市場の規模縮小 ・働き手の減少 ・高度な専門的人材、技術的人材の不足 ・地域経済の弱体化 ・高齢者向け市場の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者単独世帯の増加 ・交通弱者、買物弱者、災害弱者の増加 ・医療・介護需要の増大 ・現役世代の負担増 ・地域コミュニティの弱体化 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の減少や高齢化などインフラ・住宅需要の変化 ・空き家・遊休地の増加